

National
Parks
of Japan



国立・国定公園 総点検事業フォローアップ結果 ～国立・国定公園の新規指定・大幅拡張候補地の選定結果～

令和 4 年 8 月
環 境 省

30by30ロードマップ

(令和4年4月8日公表)

- 2021年の**G7サミット**では、2030年までに生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せる「**ネイチャーポジティブ**」や、生物多様性の観点から2030年までに陸と海の30%以上を保全する「**30by30目標**」に取り組むことを約束
- 国内の30by30目標達成に向けて、**COP15**に先立ち「**30by30ロードマップ**」を策定
- 次期生物多様性国家戦略**（年内閣議決定予定）に「30by30目標」を組み込み

30by30ロードマップのポイント

■ 国立公園等の保護地域の拡張と管理の質の向上

■ 地域の力を結集し、OECMで目標達成へ

OECM※:保護地域以外の生物多様性保全に貢献している場所（例 里地里山、企業の水源の森）

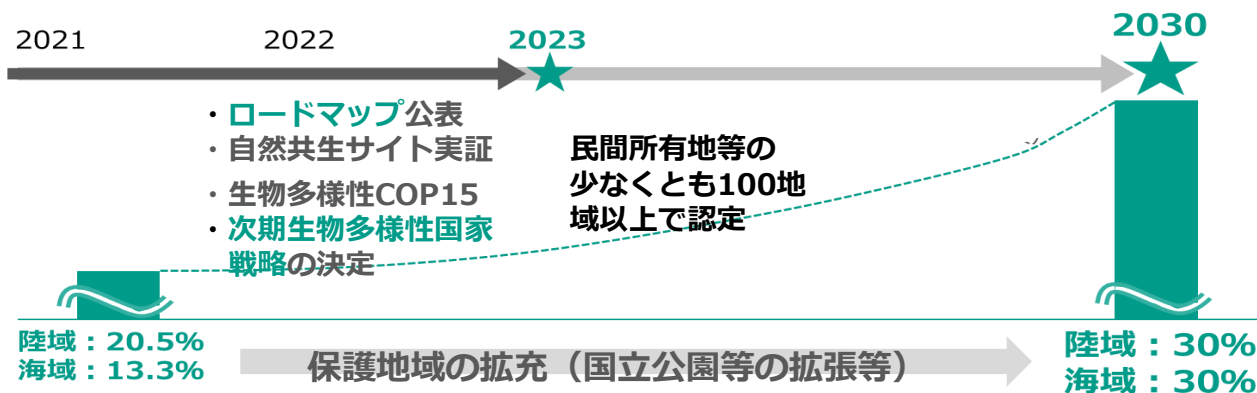
※Other Effective Area-based Conservation Measures



保護地域の拡張（国立公園等）



OECMとなるような里地里山



3. 30by30目標実現のための主要施策

①保護地域の拡充と管理の質の向上

- 陸域は20.5%が、海域は13.3%が既に保護地域に位置づけられている。陸域については、今後、国立公園等の拡張により現状からの上乗せを目指すこととし、とりわけ、国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を示した国立・国定公園総点検事業（2010年公表）のフォローアップを行い、未了のエリアを中心に指定・拡張の取組を継続するとともに、生態系や利用に関する最新のデータ等に基づき指定・拡張の候補地について再評価した上で、今後の国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を選定する。さらに、管理の質の向上を目指した地種区分の格上げ等について検討を進める。この作業で抽出した候補地を主な対象として、関係機関と調整の上、2030年までに日高山脈襟裳国定公園及び周辺エリアをはじめとした新規指定や大規模拡張等の調整を順次進める。また、2030年までに国立・国定公園の再検討や点検作業を強化し、必要に応じて周辺エリアの国立・国定公園への編入や地種区分の格上げを進める。
- 海域については、特に景観・利用の観点からも重要で生物多様性の保全にも寄与する沿岸域において、国立公園の海域公園地区の面積を2030年までに倍増させることを目指す。
- さらに、国立公園等について、広範な関係者と連携しつつ、国立公園満喫プロジェクト等により対象となる自然の保護と利用の好循環を形成するとともに、自然再生、希少種保護、外来種対策、鳥獣保護管理をはじめとした保護管理施策や管理体制の充実を図る。

30by30目標を受けたこれまでの経緯と今後の予定

R3年度 総点検事業のフォローアップ業務を実施
～R4年度 (専門家へのヒアリングを含む)



R4.6.14 中央環境審議会 自然公園等小委員会に、国立・国定公園総点検事業フォローアップによる「国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定結果」等を報告・公表



以後、地域の関係機関との調整や自然環境の詳細な調査等を行い、具体的な区域の範囲や地種区分について検討

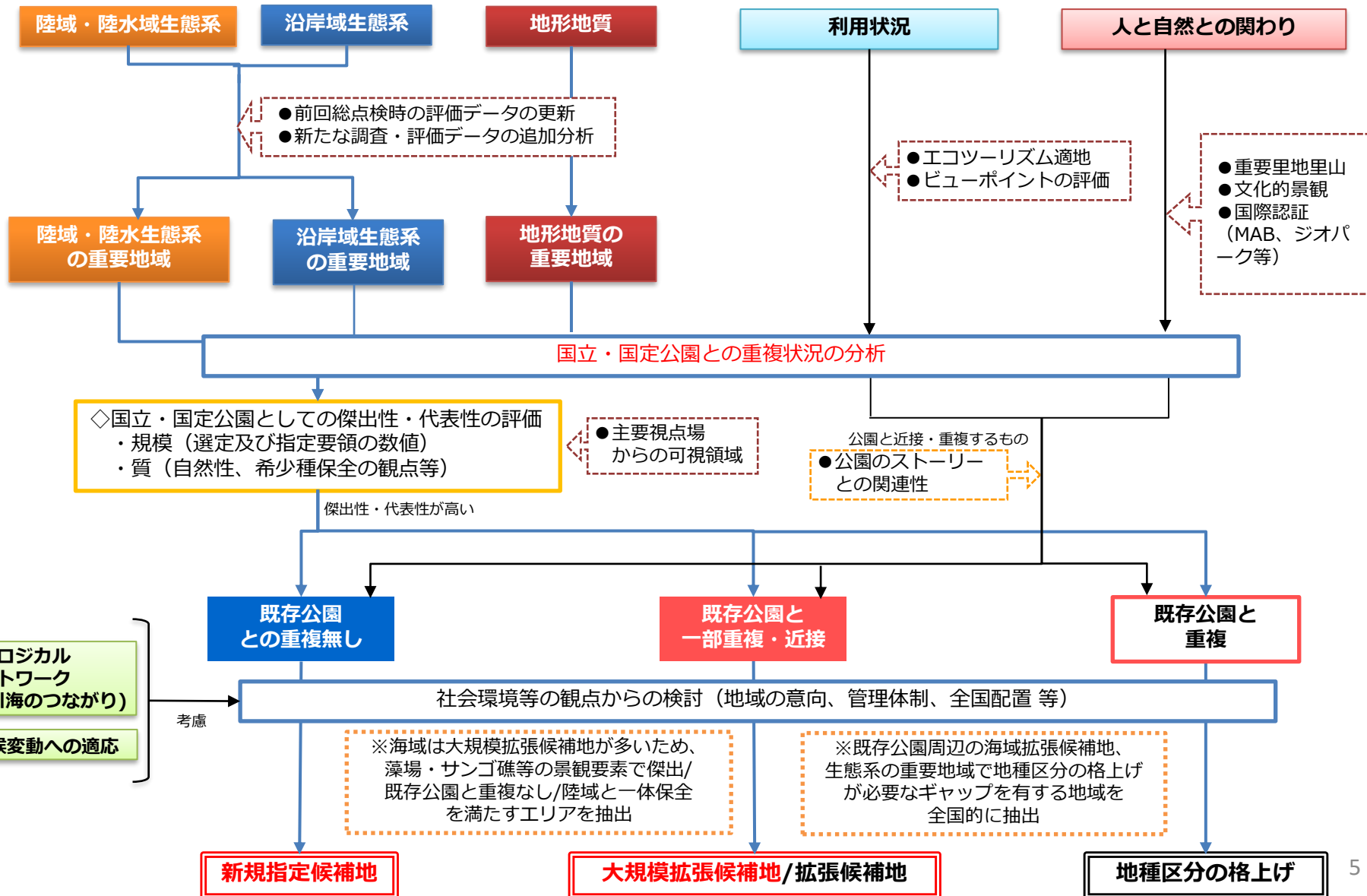


2030年に向けて順次指定・拡張を目指す

総点検事業フォローアップ業務による候補地選定フロー

① 前回総点検以降の科学的知見やデータの集積を踏まえた再評価

② 利用の観点での評価



国立・国定公園新規指定・大規模拡張候補地の選定結果

国立・国定公園総点検事業のフォローアップにより、国立・国定公園の新規指定・大幅拡張候補地を抽出した。

※今回候補地は最新の自然環境データ等に基づき資質の観点から抽出したものであり、将来的な公園指定や公園区域の拡張に向けては、関係機関との調整や詳細な調査検討が今後必要である。

● 今回のフォローアップによる新規指定候補地（前回総点検事業からの継続を含む・4地域）

- ・野付半島・風蓮湖・根室半島※ 【国定公園の新規指定】
- ・日高山脈・夕張山地※ 【国立公園の新規指定等】
- ・御嶽山 【国定公園の新規指定】
- ・宮古島沿岸海域（八重干瀬を含む） 【国定公園の新規指定】
- ※前回総点検事業からの継続

● 今回のフォローアップによる新たな大規模拡張候補地（4地域）

- ・八幡平周辺（森吉山・真昼山地・田沢湖等） 【国立公園区域の拡張又は国定公園の新規指定】
- ・奥只見・奥利根 【国立・国定公園区域の拡張等】
- ・能登半島 【国定公園区域の拡張】
- ・阿蘇周辺の草原 【国立公園区域の拡張】

なお、上記以外の前回総点検事業の候補地のうち未了の6地域については、継続する。
（参考参照）

国立・国定公園の新規指定候補地



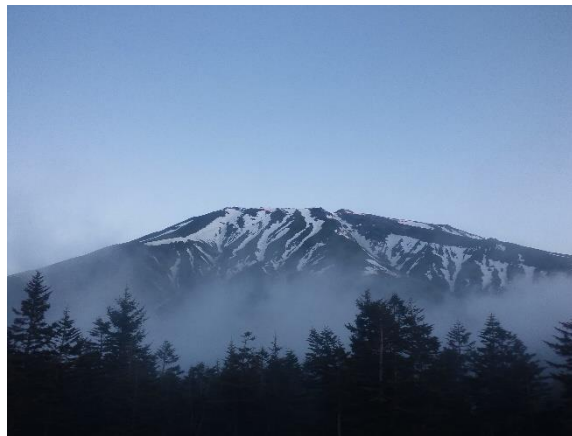
日高山脈（国立公園候補地）

氷河時代に形成された地形など傑出した地形地質が集中して分布する日本を代表する自然の風景地。植物や高山チョウ等に固有種がみられる。高山から山麓部にかけて広がる自然性が高い森林及び原生流域としては国内最大規模のまとまりがある。



野付半島・風蓮湖・根室半島（国定公園候補地）

高層・中間・低層湿原や塩性湿地、潟湖、藻場・干潟等の多様で国内有数の規模を誇る湿地が森から海まで連続性を持って分布。オオワシやタンチョウなど我が国屈指の野鳥の生息地。国内最大規模のアマモ場が広がる。



御嶽山（国定公園候補地）

標高3000mを超える山岳で現在唯一国立・国定公園に指定されていない、雄大な独立峰。高山から山腹まで連続的に自然植生が変化。ライチョウの生息地としても重要。山体の崩壊地形など地形上重要な要素もみられる。古くからの山岳信仰の対象の山であり、自然と文化が融合した価値も高い。

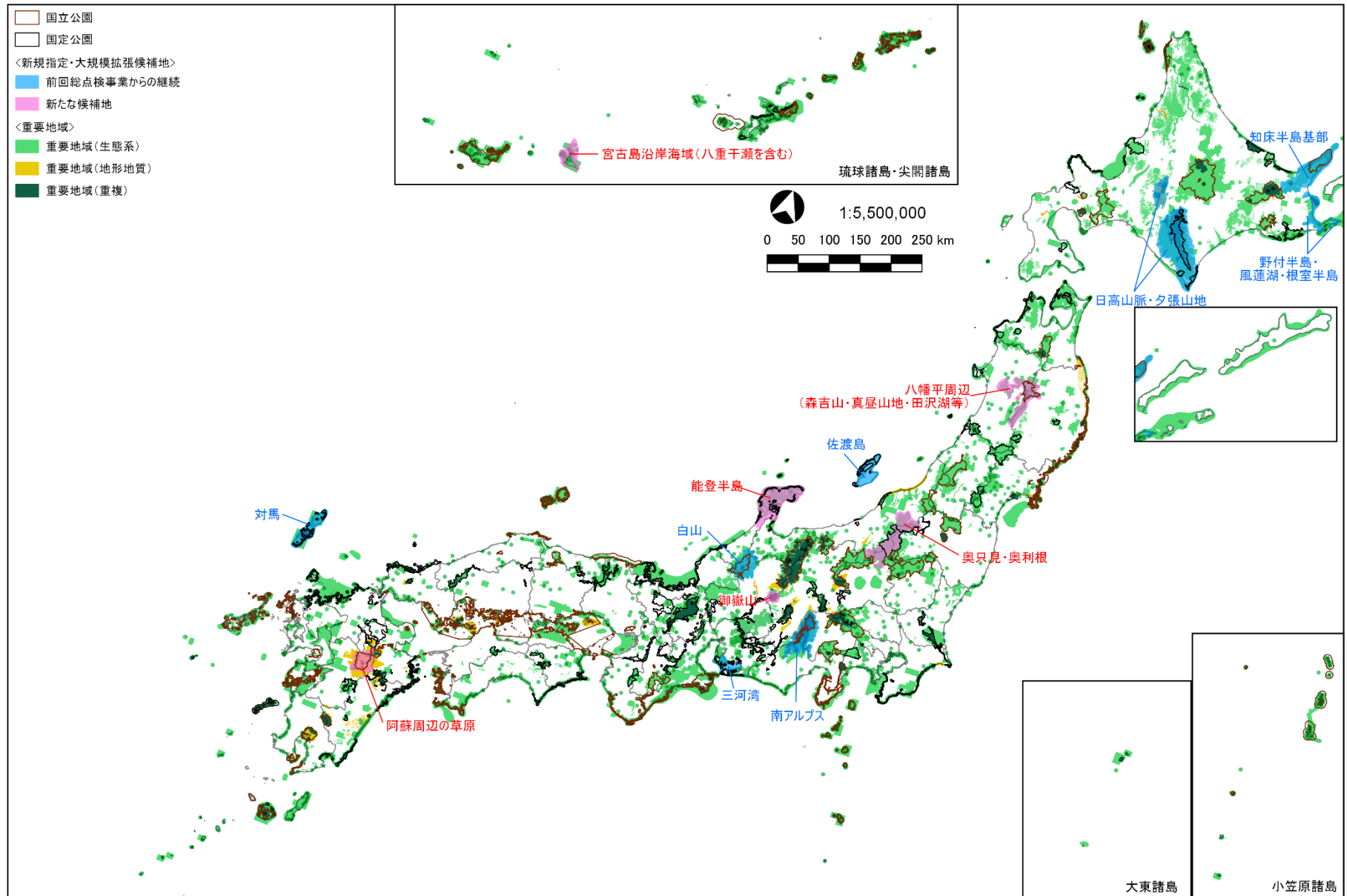


宮古島沿岸海域（国定公園候補地）

国内最大規模となるサンゴ礁群である八重干瀬（やびじ）等がある。また優れた景観を有する自然砂浜、マングローブ林、広大な海草藻場が分布し、干潟は渡り鳥の重要な渡来地となっている。ウミガメの産卵地としても重要。

国立・国定公園新規指定・大規模拡張候補地の選定結果

環境省



※候補地は最新の自然環境データ等に基づき資質の観点から抽出したものであり、本図で図示された区域は自然植生・藻場・サンゴ礁等からなる生態系・地質の重要地域の区域を主に参考にして記入したものである。詳細な区域の範囲は決まっておらず、将来的な公園指定や公園区域の拡張に向けた関係機関との調整や詳細な調査検討が今後必要である。

(参考) 2010年の国立・国定公園総点検事業の概要と進捗状況

背景 ～総点検事業における新規指定・大規模拡張候補地～

平成22年（2010年）に18地域について、自然の風景地としての評価と、今後の具体的な方向性（例：隣接する国立公園の拡張による指定、当時の国定公園地域を含む国立公園の新規指定など）が提示された。

現状 ～候補地18地域の新規指定等状況～

- ・現時点における候補地18地域の新規指定等状況は、下表の通り。
- ・18地域のうち、10地域について、新規指定または区域の拡張等が行われ一部完了含め当初の目標を達成した。
- ・一方、8地域については現在調整中も含め未了であり、今回候補地として継続する。

No	総点検事業		現状		No	総点検事業		現状	
	候補地名	方向性	状況	関係する自然公園		候補地名	方向性	状況	関係する自然公園
01	知床半島基部	拡張	未了	知床国立公園	10	紀伊半島沿岸地域	拡張	完了	吉野熊野国立公園
02	道東湿地群	拡張 or 新規	未了	厚岸霧多布昆布森国定公園	11	由良川及び桂川上中流域	新規指定	完了	京都丹波高原国定公園
03	日高山脈・夕張山地	拡張 or 新規	未了	日高山脈襟裳国定公園	12	瀬戸内海	拡張	完了	瀬戸内海国立公園
04	三陸海岸	拡張	完了	三陸復興国立公園	13	対馬	拡張	未了	壱岐対馬国定公園
05	佐渡島	拡張	未了	佐渡弥彦米山国定公園	14	錦江湾	拡張	完了	霧島錦江湾国立公園
06	南アルプス	拡張	未了	南アルプス国立公園	15	奄美群島	新規指定	完了	奄美群島国立公園
07	東海丘陵の小湿地群	拡張	完了	愛知高原国定公園	16	やんばる（沖縄県北部）	新規指定	完了	やんばる国立公園
08	三河湾	拡張	未了	三河湾国定公園	17	慶良間諸島沿岸地域	新規指定	完了	慶良間諸島国立公園
09	白山	拡張	未了	白山国立公園	18	西表島及びその沿岸地域	拡張	完了	西表石垣国立公園